

サハリン国立総合大学主催の「気候変動に関する国際会議」に参加して

宗広 一徳

1. はじめに

2021年2月8日（月）12時～15時（日本時間：10時～13時）に、サハリン国立総合大学主催の「ロシア極東、アジア・太平洋地域、北太平洋地域における気候変動と影響」の国際会議が開催されました。本会議は、ロシア連邦サハリン州ユジノ・サハリンスク市のサハリン国立総合大学国際会議場を主会場（写真-1）とし、ロシア国内の遠隔地（モスクワなど）や海外（米国、日本、韓国など）からは、インターネットを介したオンラインミーティング（Cisco Webex）により参加しました。

冒頭、来賓者として、ロシア科学アカデミー及びサハリン州議会から、本会議開催への祝辞がありました。続いて主催者を代表し、Ganchnekova Maliya Garasimovnaサハリン国立総合大学学長代理から、「世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、

このようなオンライン形式を取り入れて、本国際会議が開催できたことをたいへん喜ばしく思う。」と、挨拶がありました（表-1）。

本会議への参加者として、ロシア極東地域の大学、ロシア科学アカデミー極東支部、ロシア国内の研究機関、サハリン州環境局、漁業企業協会、石油・天然ガス開発企業であるサハリンエナジー社、エクソン社、ロスネフチ社、サハリンモルネフチ社、シュルンベルジェ社から参加がありました。

表-2 分野別のテーマ

	分野別のテーマ
1	地球規模の気候変動事情と予測
2	エコシステムと生態資源における気候の影響
3	気候変動における省エネ技術とその変化
4	気候変動の状況における地域経済

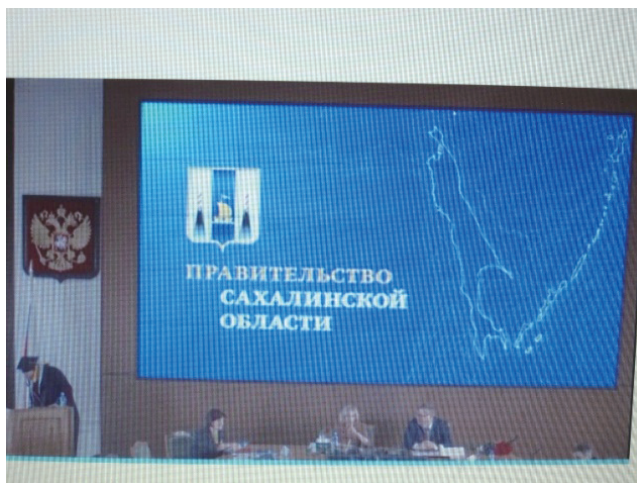


写真-1 主会場のサハリン国立総合大学国際会議場

表-1 来賓者・主催者の挨拶の一覧

	役職
1	Sergienko V. I. (ロシア科学アカデミー極東支部長)
2	Alenykov V. V. (サハリン州議会副議長)
3	Ganchenkova M. G. (サハリン国立総合大学学長代理)

表-3 発表者の一覧

	発表者
1	Gershinkova D. A. (サハリン州知事代理)
2	Efanov V. N. (生態学・生物学・天然資源学講座教授)
3	Boyarov E. N. (生命安全学講座准教授)
4	Sheiko V. V. (極東支部津波研究所主任研究員)
5	Smirnov A. A. (ロシア水産海洋学研究所研究員)
6	Afanasiev V. V. (極東支部沿岸地理システム研究所長)
7	Romanyuk V. A. (サハリンモルネフチ社氷技術グループ)
8	Nikulina I. V. (地球リモートセンシング研究所研究員)
9	Baitalyuk A. A. (ロシア水産海洋学研究所太平洋支部長)
10	Litvinenko A. V. (生態学・生物学・天然資源学講座准教授)
11	Peter Westley (アラスカ大学漁業海洋学部教授)
12	Dorofeeva D. V. (地球リモートセンシング研究所研究員)
13	Latvskaya E. M. (ロシア水産海洋学研究所サハリン支部長)
14	宗広 一徳 (寒地土木研究所主任研究員)
15	Kopanina A. V. (極東支部植物地質生態学研究所長)
16	To K. S. (法律・経済・経営研究所長)

2. 発表

本会議では、サハリン州内で石油・ガス開発をはじめ、道路や港湾などの大規模なインフラ整備が進む一方で、近年の気候変動（温暖化など）により、生態系の変化や環境や地域経済への影響が生じている可能性があることから、4分野のテーマ（表-2）について、ロシア国内外の16名の行政担当者や研究者（表-3）から発表がありました。表-3中の2、3、8、10、12、16はサハリン国立総合大学の学者であり、4、6、15はロシア科学アカデミー極東支部の研究機関に従事する研究者からの発表でした。

筆者に対しては、2019年3月、サハリン国立総合大学で特別講義「寒冷地の道路建設」を担当した経緯があることから、今般、同大学から本会議へのオンライン参加と発表の招待状が届きました。本招待状に応える形として、「最近の北海道における大規模災害（台風、冠水、斜面崩壊、地震、豪雪・吹雪）の事例」について、ショートプレゼンテーションを行いました。

ロシアからの発表としては、ロシア科学アカデミー極東支部津波研究所のSheiko V.V.主任研究員から、「サハリン州内で頻発する自然災害の事例（地震、津波、森林火災など）」の紹介がありました（写真-2）。また、サハリン国立総合大学のTo K.S. 法律・経済・経営研究所長からは、「サハリン地域における気候変動に伴い、生態系の変化や水産資源の変化が生じ、さらに地域経済へも影響が出ている」旨の報告がありました（写真-3）。その外にも、表-3に示す発表者から、極寒冷地での石油・天然ガス開発で用いている氷掘削技術、オホーツク海での水産資源量の変化と予測、気候変動に伴う生態系の変化や影響などの報告がありました。

3. おわりに

本国際会議を通じ、サハリン州では、大規模な石油・天然ガスの資源開発が進む中、気候変動とその影響に関する関心が強いことが分かりました。主催者であるサハリン国立総合大学からは、インフラ開発や生態系の保全や水産資源の確保に資する人材育成の強化が求められている主旨の発表もありました。

周知のとおり、北海道とロシア極東は隣人です。共通する課題の情報共有を図りながら、寒冷地土木技術の分野で貢献していく所存です。

また、今回の国際会議参加を通じ、ロシア国内では

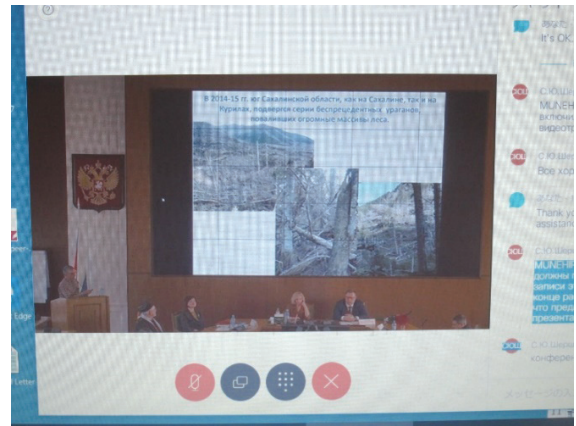


写真-2 森林火災の事例紹介
(Sheiko V. V. ロシア科学アカデミー極東支部津波研究所)

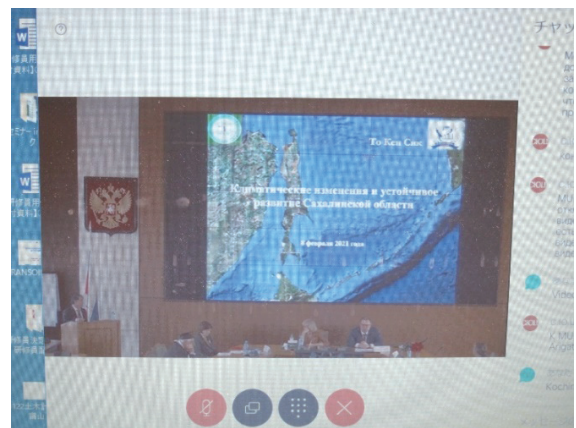


写真-3 気候変動に伴う地域経済への影響
(To K. S. サハリン国立総合大学法律・経済・経営研究所長)

オンライン形式の会議は頻繁に行われており、かつ研究者や学生がたいへん上手に使用していることが分かりました。

今後の国際会議の開催方法として、「オンライン形式は当たり前になっていくのだな。」と、実感した次第です。

末筆になりますが、今回のオンライン会議への参加の招待状を送付頂いたサハリン国立総合大学のGanchnekova Maliya Garasimovna学長代理、Olga Shashikina教授に謝意を表します。



宗広 一徳
MUNEHIRO Kazunori

寒地土木研究所
寒地道路研究グループ
寒地交通チーム
(国際研究連携班兼務)
主任研究員
博士(工学)
技術士(建設)